

一球通信 vol.155

*****コンテンツ*****

1. 春季リーグ戦について
2. 令和2年春季総会開催日程
3. 選手紹介（投手）
4. 広商交流50周年企画
 - 〔1〕プレーバック交流史
 - （1）今井鉄郎様（S48卒）
 - （2）畠山圭司先生

1. 春季リーグについて

今季のリーグ戦の開幕は4月の第2週を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、延期となりました。

3、4部は最速でも4/25以降の開幕となります。

東都大学野球連盟では状況を見て話し合いが適宜行われており、3/23に行われた会議で延期することを決定いたしました。新たな開催日程や開催形態は4月上旬に決定予定です。最終的な開催日程、形態が決定しましたら、ご連絡させていただきます。

2. 令和2年春季総会日程

硬式野球部春季総会および懇親会について、以下のように決定致しました。

令和2年硬式野球部春季総会・懇親会

日時：7月11日（土） 17：00

場所：国立 佐野書院

例年、総会前にOB戦等を実施しており、今年度につきましては現段階では詳細未定ではございますが、OB戦、総会ともにぜひご参加いただけますと幸いです。

日にちが近づきましたらご出欠をメールにてお伺いさせていただきます。よろしく願いいたします。

3. 現役選手紹介（投手）

春リーグ開幕に向けて、簡単ではございますが現役部員の紹介と意気込みを掲載させていただきます。試合の鍵を握る彼ら投手の活躍にぜひご期待ください！

〈新4年〉

笠松 慎（奈良学園登美ヶ丘）

背番号21 右投 168cm

テンポの良いピッチングで試合の流れをつくりたいと思います。また、最高学年としてチームを引っ張る活躍をします！

亀山 龍雅（県立葛飾高校）

背番号19 左投 174cm

冬練ではフォームを1から見直してきました。色々ありましたが、最後の1年もう一度マウンドに立てるよう頑張ります。

〈新3年〉

伊地知 航（浅野）

背番号11 右投 178cm

自分はこの冬で球速を意識したフォームの矯正に取り組みました。春はまず腰の怪我を治すことを第一に考えようと思っています。

佐藤 昂樹（県立仙台二）

背番号8 右投 176cm

冬練ではフォーム固めに取り組みました。春リーグでは1試合を完投できる安定感を発揮できるように頑張ります



〈新2年〉

大田 響介（小石川中等教育）

背番号26 右投 172cm

冬練は、フォームのぶち壊しと再建、ウェイトを頑張りました！フィジカルはまだまだですが、マウンド度胸は人一倍あります。春リーグは記録にこだわりリーグ優勝に貢献します！

三家本 直希（川和）

背番号2 右投 176cm

2年から内野とピッチャーを兼任していて、肩の怪我が治ったらピッチャーとしても結果を残せるように頑張ります。

持丸 航毅（桜修館中等教育学校）

背番号47 左投 181cm

特にストレートの回転を意識しています。冬練では肩の治療・リハビリに専念しました。春はリーグ戦で登板することが目標です。優勝に貢献できるよう頑張ります。

（左から 佐藤、笠松、大田）



4. 広商交流 50 周年企画

〔1〕プレーバック交流史

- (1) 今井鉄郎様 (S48 卒)
- (2) 島山圭司先生

昨年4月より連載を続けて参りました、広商交流 50 周年企画ですが今回で最終回となります。連載にあたりご寄稿して下さった OB の皆様、ご指示頂いた飯島様、佐治様、誠にありがとうございました。

OB の皆様にとって、合宿等の思い出を振り返る良い機会となっていましたら幸いです。形が変わりながらも 50 年続く広島商業とのつながりはこれからも貴重な機械として大切にしていきたいと思えます。

【プレイバック交流史・一橋今井さん広商野球部 100 年史寄稿】

広商浜田君との真剣勝負

今井 鉄郎

(昭和48年一橋大学経済学部卒 東京開成高出身)

広商野球部：島山部長 追田監督 古賀主将



私が広島に浜田家を訪れたのは昭和46年12月初めだったと記憶しています。当時私は一橋大学硬式野球部主将を拝命し同時に不慣れた捕手にコンバートが決まり、これからいったいどうしたものかと思案に暮れていた処でした。折りしも当時広商野球部長であられた島山先生から「広商野球部から初めて早稲田を受験する生徒がおる。広島に来て野球の練習かたがた勉強を教えてくださいませんか？」とお誘いがあり渡りに船とばかり、ふたつ返事で受諾致しました。これがその後30年以上毎年続いている広商／一橋のいわば「学問と野球の業務提携システム」の始まりであります。

浜田家を訪れ初めて私が浜田君と接した時は正直言って慌てました。というのも彼は今迄教科書など殆ど開いた様子がなくとても受験どころの話ではなかったからでした。ただ「宜しくお願いします」という彼の真摯な態度とキラキラとした燃えるような眼差しに何か可能性みたいな物を感じ「とにかくやってみよう」と思ったのが偽らざる私の印象でした。それから早速私は次の様な作戦を立てました。

1. 社会科の選択科目を倫理社会とした。これは日本史や世界史では範囲が広すぎてとても今からではカバーしきれない。一方倫理社会なら知らない事でも一般常識で何とか答えが出せるかもしれない。
2. 国語は古文・漢文を中心に勉強。今更現代文をやっても間に合わないと思ったからである。
3. そして主な時間を英語の勉強と早稲田大学教育学部の過去10年間の入試問題を徹底的に研究させた。出題者には好みがあり似たような問題が出る傾向があるからである。

これらは本来の学問のあるべき姿からはかなり乖離してはいますが、限られた時間で成果を上げる為には正直言ってこのやり方しかなかったのであります。このようにして昼は広商野球部員と一緒に練習、夜は浜田君との二人三脚で深夜まで勉強という生活が一ヶ月半続きました。高校生に混じっての練習は予想以上にハードで夜はヘトヘトになりながら浜田君と書物をひも解き、時には睡魔に襲われる事もありましたが、これは私にとっても戦いであると思ひ、浜田君との一対一の真剣勝負のつもりでなんとか頑張りました。

正月元旦は初日の出を拝みに宮島詣をするのが広商野球部員の行事でありましたが、私は浜田君の参加を認めませんでした。さすがの島山先生もビックリされた様でしたが私に浜田君の事を任せただけで私に敬意を尊重して戴きました。これは単なる精神論ではなく浜田君には時間をもっと他の事に有効に使って欲しかったからであります。あの時はとにかく一分でも一秒でも惜しんで浜田君には一切無駄な時間は使わせたくなかったのであります。幸い浜田君は広商野球部で鍛えぬかれた選手だけあって目的達成の為に自分をどのようにコントロールしていくかの術を充分身につけており、立てた計画の遂行にあたっては極めてスムーズに取り進める事が出来ました。そして浜田君は見事念願の早稲田大学に合格、私の技量の方も「中日ドラゴンズの二軍なら特別なコネを使って入れてあげても良い」と言われるまでに腕を上げる事ができました。

年月が経ち今振り返って思うに、広商野球の神髄は先見性に富んだしっかりとした戦略を持っているという事だと思ひます。広商／一橋の交流も文武両道追求という大きな戦略の一環であり、その戦略に間違いが無かったからこそ30年以上も営々と続いて来たのだと思ひます。今、広商野球部で一橋大への進学を目指している生徒がいると聞きました。一橋大野球部の向上の為に近い将来是非実現して戴きたいと願っている次第であります。(今井 記)

【プレイバック交流史・畠山先生交流についてあとがき・広商野球部 100 年史】

時代と共に野球も変わる

—— 将来とも交流を心から願って！ ——

以上が「広商野球部100年史」第五部、第4章「一橋大学野球部交流30年」からの転載であります。ご覧の通り新田哲郎氏の「交流のきっかけ」池田茂樹氏の「歳月を忘れさせる思い出」このご両人の所感で、昭和43年（1968年）一橋大学商学部での長期派遣時代の交流のきっかけをご理解いただけたらと思っております。池田氏の寄稿文は非常に詳細に記述していただいていると思いますが、当時主将であった稲垣博正氏、次年度主将の後藤信之、マネジャーの小川満氏同期の皆さんも同じ感じをもって下さっていると思っております。47年度卒のその次の主将をされた乙黒勤氏をはじめ、森脇、吉田この方々が第1学年の在学学生でした。

研修期間が終って昭和44年秋から野球部長に就任いたしました。今井鉄郎氏の「浜田君との真剣勝負」、原岡賢一郎氏の「わが人生に広商野球ありき」、新悟氏の「人生の財産となる交流」このお三方は主として一橋大学野球部の皆さんが、一生懸命に交流の主旨であるところの、勉学の指導についてご苦労されたことが、詳細に述べられております。一橋大学野球部と広商野球部との30年継続のエネルギーとして、大変重要な時期であったと思っております。

坂本雅昭氏の「7回の広島訪問」、中村正文氏の「暑い夏の思い出」倉田紀彦氏の「広商野球部にエール」これ等も前者の交流が軌道に乗ってきた証明で、岡山大手饅頭伊部屋代表取締役大岸豊和氏（昭和53年商卒）は広島訪問8回に及び、現在も連絡をとり合ってお会いさせていただいております。平成11年の暮、監督の久木田義雄様（昭和35年商卒）が選手を引率して広島冬キャンプに参加されました。ご寄稿いただいておりますので詳しくは述べませんが、広商の部長、監督、部員達が心から一橋大学野球部の皆さんと交流させていただいていることに、感謝の気持ちを抱いて、お待ちしております。分かっていただければ、関係者は心から喜ぶことでしょう。このように思っております。

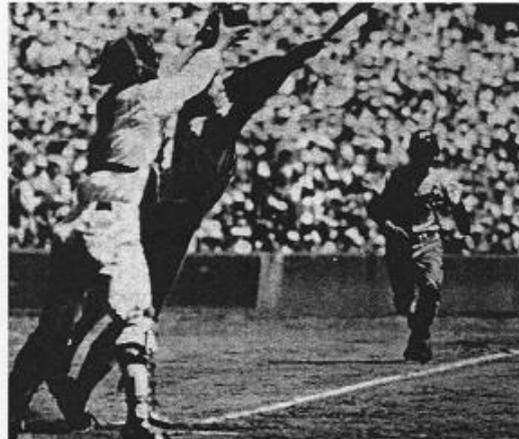
世の中が混乱し、人間信頼の姿が不透明である中において、一橋大学野球部皆さんとの交流は、これを絶対に継続させて行かねばならないと思っております。広商野球部部員にとって、一橋野球部の皆さんは健全な常識をもったお兄さんであります。兄貴の結婚式に声をかけられ、慶こんで参加させていただくOB生徒もおります。交流の時を過ぎても社会人としての交流もさせていただいている者もあるようです。

学生の皆さんが、広商野球部員に与えて下さる影響力は勉強だけではないのであります。健全な常識を持っている兄貴として、尊敬している部員達であります。どうぞ将来とも野球を愛する弟分としてご厚情下さいますよう心からお願いを申し上げる次第であります。

最後に一橋大学野球部O.B会長中込千尋氏（昭34年商卒）により、ご丁寧な「広商野球部百年史」購入協力にご理解をいただき推せんという言葉をいただいたこと誠に有難とう

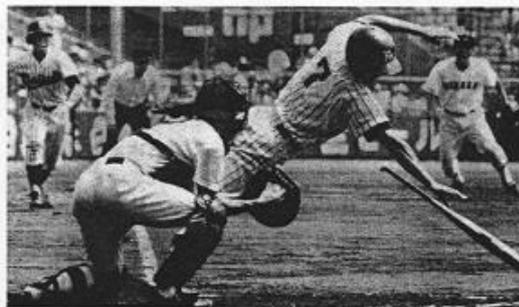
ございました。厚くお礼を申し上げます。紙面も僅かになりましたので「時代と共に野球も変わっていく」ということをお話し致します。

スクイズを高めに遠く外すのは20年前の野球。
パーフェクト・スクイズの誕生



対静岡高校戦 2-0 で広商リード、1死3塁で静岡永嶋スクイズ外され3塁走者秋本狭殺されアウト。捕手達川。この年V5達成。

考えてみれば一橋大野球部との交流も30年を過ぎた。この写真は昭和48年（1973年）第55回夏の選手権大会、甲子園での決勝戦対静岡高校戦のものである。投手側は写真には現われていない、捕手は達川である。（現東洋カーブ監督）高目の外側にウエストボールで静岡のスクイズを失敗させている。別に不思議でも何でもない。この時代はこのようにしてスクイズを防御していたのである。次の写真を見てほしい。48年のスクイズ防御方法とは違っている。



写真上は福岡第一 2回 1死 1-3 塁走者福田のスクイズは外され、三塁走者も狭殺される。捕手尾崎、三塁手重広。この年V6達成。

この写真は昭和63年（1988年）第70回夏の選手権大会、甲子園での決勝戦対福岡第一との試合である。この試合9回

の表1点を広商は挙げて、1-0で全国優勝したのであるが、2回福岡第一の実行したスクイズプレイをこのように防御し、失敗させたから結果として1-0で全国優勝V6を達成出来たのである。私は最近次のような問題を出している。相手チームがスクイズのサインを出したとする。あなたは守備側の監督です。スクイズを見破った監督です。どのように対応しますか？と質問するのです。その回答は殆んどウエストを命じてそのスクイズを失敗させると答えてきます。私はその時20年前の野球ですネと回答しています。スクイズのサインを見破ってウエストボールを高く外へはずす。この野球が20年前の野球だと言っているのです。私達はスクイズのサインを見破ったら、内野手を前進守備より中守備へ動き、定位置よりに深く守るように自然に移動します。相手監督にスクイズの取り消しのサインを出させないためです。まずこれが思いつかないでしょう。次に三塁走者ですが、投一捕間でウエストボールを投げて、打者が失敗すると思っても、従来のスクイズプレイは途中で中断することは出来ないことになっています。要するにウエストボールだから、走者は楽にアウトになる、しかしこれもやむを得ない。今までのスクイズプレイはサイン通り本塁へ突入することになります。私達は投手がウエストしたら三塁走者はホームへ突進しません。打者もバントはやらないのです。走者は本塁へ還って来ないので、打者はバントする必要はないのです。それでは三塁走者はどうするのかと申しますのと、ウエストされないと判断したら、本塁へ突入するのです。捕手が低い姿勢で、ウエストでないと判断したとき三塁走者はホームへスタートするのです。写真は捕手が低い姿勢のとき走者は本塁へスタートをきりました。投一捕は低めのスライダーを低く遠くはずしてしています。打者の腰は伸びています。高いウエストボールに対応して高いボールを予想して腰が伸びているのです。しかしボールは低めのスライダーだったのです。バットがボールに届きません。この写真のスクイズを外して走者をアウトにし、無得点で押さえたので1-0という劇的なゲームでV6が達成出来たのです。このスクイズをパーフェクト・スクイズと言います。

「未公開の戦術を生かす勇気を持って！」

以上はパーフェクトスクイズについての解説であるが、このサインプレーは余り使用されていなかった。

昭和63年広商V6の達成時、スクイズの防御として写真のように使ったが、川本幸生監督は攻撃面では一度も使用しなかった。

理論的には容易に考えられ易いが、判断が非常に難しいプレイなのです。このサインは余力として保持する方が得策かと思っている。それよりも、他方面の技術向上に力を集中した方が正解ではないかと思っている。要するに余り長い時間をかけて練習することはないかと思っているのです。それよりもパーフェクトエンドランの方に力を入れることを勧めます。

昭和57年、桑原秀範監督は命がけと言ってもよいでしょう、自分の意のまま選手が動いて呉れるチームを造り上げました。夏の県予選決勝は快進撃の崇徳高でした。準決勝で優勝候補の広陵を大差で破り、広商の甲子園への出場も、高い壁がそこに存在するという印象でした。ところが結果は5-0池本投手の完封という結果で終わったのである。この試合で走者3塁で、打者相鳥は3塁ゴロで対応した。平凡な3塁ゴロであったが、走者は投球と同時にホームへ突入した。内角やや高めのシュートぎみの難しいボールだった。広商初めてのパーフェクトエンドランで第1号であった。5-0完封の理由は57年表紙にあるのでここでは述べない。本大会の決勝戦対池田高校戦は「球史にのこる大差」で負けたのであるが、これも理由があった。これも国体では見事雪辱した。

この二つの決勝戦、選手権と国体での試合にいずれも「パーフェクトエンドランで各1点づつ挙げている。この年県決勝対崇徳高戦と甲子園の決勝、国体での決勝戦この3回「パーフェクトエンドラン」を使い、3回とも成功している。

この「パーフェクトエンドラン」は、時代の変化とともに野球も変わるということになるのだが、大げさに言えば時代の進化に伴う「戦術の開発」の一つである。

重要な試合では、先取点の攻防に、更に点差を縮める戦術としてよくスクイズを使います。「ウエスト」「ウエスト」とスクイズを警戒してくるチームには普通のスクイズは命じにくいものです。このような状況の場合、「パーフェクトスクイズ」とか「パーフェクトエンドラン」と言う戦術は有効な攻撃の手法ではないかと思っているのです。「ウエスト」なら3塁走者はホームに還りませんし、打者も加撃はしません。このようなチームも最も有効なサインプレーであると思っているのです。

スクイズの機会に「ウエスト」「ウエスト」を高く遠くへ外すチームはどこまで野球を研究しているのか。と考えるのです。

「時代の変化とともに野球も変わる」のであれば対応策は生まれてくるものであります。この対応策も戦術の裏表の関係で研究せねばなりません。

広商がV6を達成した際この「パーフェクトスクイズ」「エンドラン」は使わなかったと言っても、使わないのがよいと言っているのではない。

十分使える戦術として生かしてほしい。これも使う勇気と度胸が必要なのである。「時代と共に野球も変わる」と言う側面からみれば、戦術を知っていて使わないのは、時代に乗りおくれたことになっているかと思っている。歴史的なゲームで、未公開の戦術を活用出来ることは、その時代の先端に行くことになるか信じている。戦術の開発とその活用、これは現代の高校野球には欠くことの出来ない部分で、やりがいのある野球指導者の仕事だと思っている。人間形成の面からみても創造と研究開発と自己啓発これ等はいずれも魅力のある男の仕事だと考えている。

今月も一球通信をご覧頂き、誠にありがとうございます。

コロナウイルス感染拡大のため、現在大学内での活動も制限されております。春の試合やリーグに向け練習してきた中厳しい状況ではございますが、各自体調管理や気持ちのコントロールに留意し、春リーグの開幕に備えて参ります。

3月10日に合格発表が行われ、今年も多くの新入生が入学いたしました。説明会、体育会の集いなど新歓活動が中止となり、新入生とコンタクトがとりにくい状況となっておりますが、硬式野球部ではTwitterなどSNSを通じた新歓活動や例年通りyoutubeにて新歓pvを配信しております。できるだけ多くの硬式野球部に興味のある部員に出会える4月になればと思います。

今後とも一橋大学硬式野球部へのご支援、ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

2年マネージャー

浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com

硬式野球部ホームページ OBOG ページ パスワード

hitbbc